

環境映画上映会

最後の一滴まで

ヨーロッパの隠された水戦争



私たちが生きていく上で必須である「水」。2010年、国連総会は安全な飲料水へのアクセスを人権の一つとする(The Human Right to Water)原則を承認しました。しかし1990年以降、世界の多くの国・自治体において水道サービスの民営化が進み、途上国での水へのアクセスもまだ多くの課題が残っています。

日本でも2000年以降、水道事業への民間参入の道が開かれてきました。2018年6月、国会で水道法の改正案が審議され、今まで以上に民間企業が水道事業に参入しやすくなる「コンセッション契約」の推進を含む改正が検討されています。水道事業は民間企業が担えようまくいくか？ 公共サービスとは何か——？ 日本の私たちに突き付けられている喫緊の課題です。

こうした中、ヨーロッパをはじめ多くの国・地域における注目すべきトレンドがあります。それは、民間企業が担ってきた水道サービスを公営に戻す動き、すなわち「水道の再公営化」です。2000年以降、世界では835件以上の水道再公営化が行われてきました。それを牽引するのがヨーロッパの大都市の事例です。住民の運動や地方議員からの提起によって水道事業が公共の手に取り戻されているのです。再公営化を果たしたパリ市やベルリン市などの行政当局の担当者や議員は、「民営化という幻想」を強く批判しています。

一方、2008年の欧州債務危機によって深刻な打撃を受けたギリシャやポルトガル、アイルランドなどの国々には、欧州連合による財政再建計画の一環として水道事業の民営化が押し付けられています。背後には、これらの国々を新たな投資先として狙う水道企業と、その企業と密接につながるフランス政府などの存在があるのです。再公営化によって水道サービスを公共に取り戻した自治体と、いままさに民営化を強いられている自治体——。同じヨーロッパにおいても、両者の姿は明確に異なります。

「水道サービスは誰が担うべきなのか？」

「水は商品か、人権か？」

「民主主義・自治は機能しているのか？」

ヨーロッパの人々の問いは、日本の私たちにも大きな示唆を与えてくれます。

●令和元年9月7日(土)

●参加費無料！申込不要！

●定員：54名 先着順！

●時間：午前10時00分～午前11時00分 ※入場開始：午前9時30分

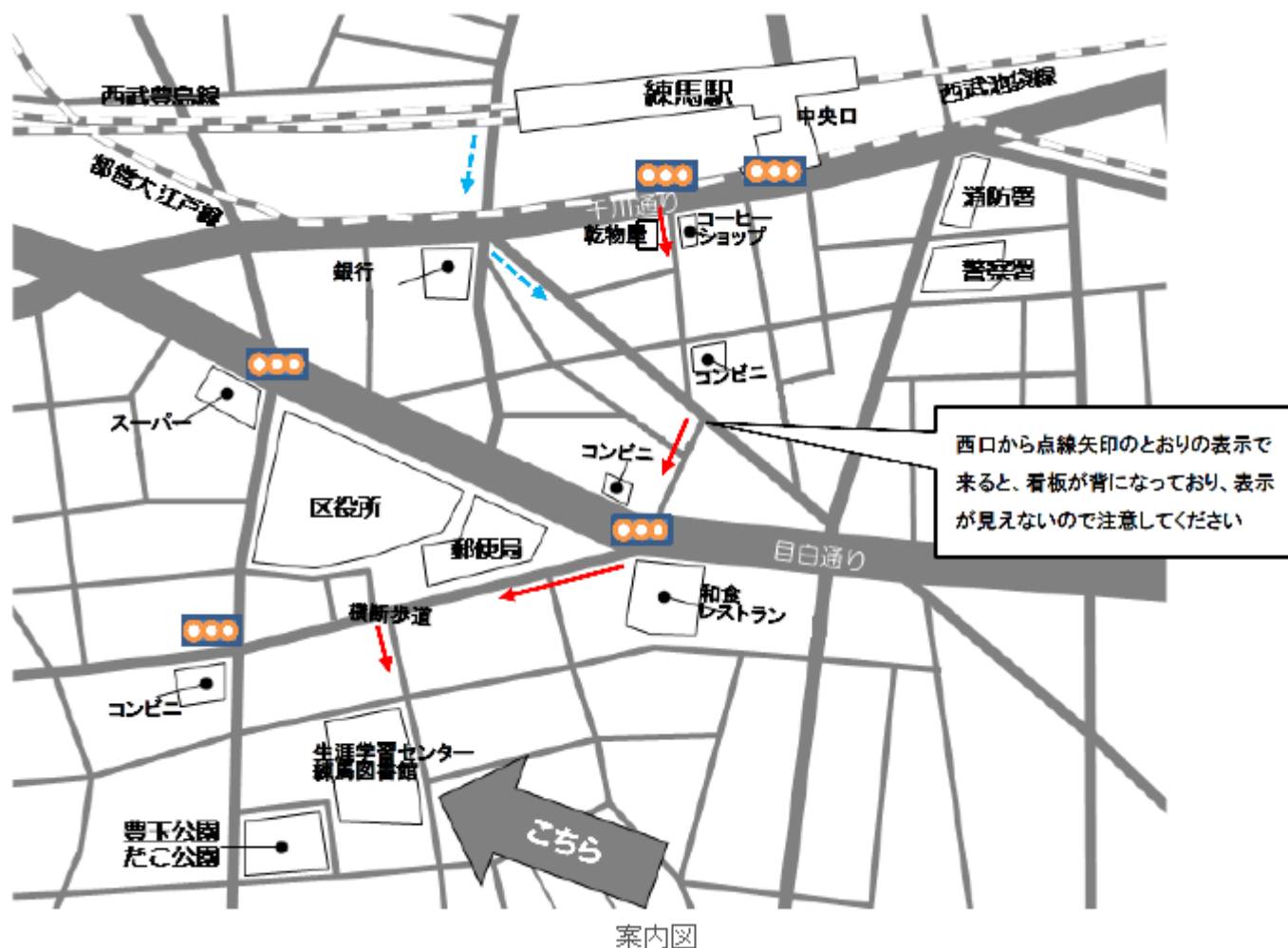
●場所：練馬区生涯学習センター2階・教室1

●住所：東京都練馬区豊玉北6-8-1※地図裏面

●問合せ：練馬区生涯学習団体/エコピープル勉強会/代表 渋谷誠 090-6197-0524



第 69 回エコピープル勉強会 in 練馬区



エコピープル勉強会のご紹介

エコピープル勉強会では月 1 回、練馬区生涯学習センターで、環境映画の上映会を開催しています。

環境映画の上映会のご案内は、「エコピープル渋谷」のメーリングリストを利用してお知らせさせていただいております。このメーリングリストはその他に環境ニュースを随時配信させていただいております。当メーリングリストへの登録希望の方は以下の要領でメールにてお申込み下さい。

- ・ 件名：【エコピープル渋谷：登録希望】
- ・ 宛先：shibuya@jcom.home.ne.jp
エコピープル勉強会 代表 渋谷 誠
- ・ 本文：配信希望のメールアドレスを記載